

第1回 I R いしかわ鉄道利用促進協議会 議事録

(開催要領)

1. 開催日時：令和5年5月22日（月）11時00分～12時10分
2. 場 所：石川県庁 1109 会議室
3. 出席者：石川県知事：馳 浩、金沢市副市長：新保 博之（金沢市長村山 卓代理）、
小松市長：宮橋 勝栄、加賀市長：宮元 陸、白山市長：田村 敏和、
能美市長：井出 敏朗、野々市市副市長：山口 良（野々市市長粟 貴章代理）、
津幡町副町長：坂本 守（津幡町長矢田 富郎代理）、
I R いしかわ鉄道（株）代表取締役社長：七野 利明、
西日本旅客鉄道（株）金沢支社副支社長：岡 久資（金沢支社長 漆原 健代理）、
北陸鉄道（株）代表取締役社長・（公社）石川県バス協会会長：宮岸 武司、
北陸経済連合会専務理事：東田 隆一、石川県商工会議所連合会専務理事：普赤 清幸、
石川県商工会連合会理事：北野 ゆかり、（公社）石川県観光連盟副理事長：山下 活博、
日本労働組合総連合会石川県連合会副事務局長：村上 睦、
石川県高等学校PTA連合会：英 華苗、石川県PTA連合会副会長：久木 恵美、
子育て向上委員会代表：長谷川 由香、ホテル日航金沢チーフコンシェルジュ：小島 久枝
※敬称略、順不同

1. 開会

2. 挨拶

【知事】 おはようございます。

お忙しい中、こうしてお集まりいただき、ありがとうございます。

いよいよ来年3月の北陸新幹線敦賀開業が迫ってまいりましたが、同時に、私たち県民にとっての大事な日常の足であり、また北陸新幹線を利用される方の二次交通でもある I R いしかわ鉄道。安定的な運行はもちろんであります。経営も成り立たせていかなければならない。そのためには、今日お見えの各界の皆様、また沿線の市町の皆さん、みんなで協力して利用促進をしていこうと。そのための知恵を出していただく。我々は、ハピラインふくいと連携し、JR七尾線とも連携し、あいの風とやま鉄道とも連携し、自分たちの鉄道だという意識で利用促進をしていく。そのためのもちろん観光商品もつくっていかねばいけませんし、恐らく割引の商品もつくっていかねばいけないと思っています。

私も今朝、JR七尾線に乗ってきたんですけれども、やっぱり大事な路線でありますし、経営する側としても、JRさんとも連携して、いいダイヤ、そしてニーズを踏まえたサービスの提供もしていかなければいけないというふうに思っています。もちろんこれに北陸鉄道さんの浅野川線と石川線もうまくつなげていかなければいけないですし、バスとも連携をしていかなければいけません。また最近、金沢市でやっておりました「まちのり」自転車、できるだけ沿線全域にも展開しながら、こうしたつながりを求めていく必要もあると思っています。

ぜひ皆さん、いろんなご意見を出していただくとともに、利用促進の機運を盛り上げていきたいと思っておりますので、ぜひともご協力のほどよろしくお願ひしたいと思っております。

では、短い時間ではありますが、よろしくお願ひいたします。

3. 議事

- (1) I Rいしかわ鉄道利用促進協議会規約について
- (2) I Rいしかわ鉄道の利用促進について

(事務局から、資料1、2に基づいて説明)

4. 意見交換

【光永企画振興部長】 それでは意見交換に移りたいと思います。今ほど事務局のほうから令和5年度のI Rいしかわ鉄道の取組、それから全国の様々な鉄道会社、並行在来線以外も含めた鉄道会社さんの利用促進の取組についてご紹介をさせていただきました。

本日は、初回ということもございますけれども、I Rいしかわ鉄道の取組、それから全国の取組も御覧になっていただいた上で、今後、I Rいしかわ鉄道でどのようなことに取り組み、来年度以降どのようなことに取り組みでいったらよいのかというような辺りにつきまして、ご意見を頂戴できればなというふうに思っております。

どなたからでも結構ですので、ご意見いかがでしょうか。

【知事】 ホテル日航金沢の小島さん、お願いいたします。

【小島委員】 今こちらに様々な事例等々がございまして、どれも魅力的かとは思いますが、ここには出ていないことをあえて私、観光の立場から申し上げたいかと存じます。

実は今朝、海外のお客様をホームまでお見送りにまいりました。そのときに実感しましたのが、有人の改札を海外のお客様は結構お通りになっていかれるんですね。今は自動改札が主ですが、私どもはグループの方が通っていただくのに有人のところを訪ねました。

そのときに思いましたのは、まず海外のお客様、日本のお客様もそうですけれども、駅というのは、初めてそのまちに降り立ったとき、そしてお出になるときの印象を本当に決定づける場所だと思ったんです。ですので、ハードはもちろんですが、そこでのソフト、本当の僅かな一瞬のソフトの印象がそのまちにつながるということを今朝私は実感いたしました。

ですので、こちらに出ている商品ですとかいろいろなことがうまく作られて、うまくPRされて、それが利用されることがまず第一だと思いますけれども、そこにはその後それを運用する人、ソフトということを決して忘れてはいけないというふうに思いましたので、やはり人の力というのをここにもぜひ加えていただけると、私の立場からは非常にうれしいかなというふうに思いました。

【知事】 続きまして、子育て向上委員会の長谷川さん、お願いいたします。

【長谷川委員】 私のほうからは、主に子育て世代、子育て世帯、家族連れの視点から意見を申し上げさせていただきたいと思っております。

非常に案として魅力的なものがたくさんあるなというふうに感じました。ただ、石川県って車社会ですし、子供を持っているとどうしても荷物が多くなるので、電車よりも自分の車を使っているところへ行くほうが楽というふうな考えにどうしてもなってしまうがちなんですけれども、一方で、電車のよさとかレジャー感、何かちょっとワクワクする気持ちというのは間違いなくありますので。さらに、コロナで近場の魅力というか、自分の近所にこういったすばらしいものがあったんだというものに気づいたこの二年、三年になったと思

ますので、そういったものをうまく場所に引っ張り出すような仕組み、仕掛けというのが鉄道の分野でできていったらいいんじゃないかなというふうに感じました。

石川県は、県民育児の日というものがあまして、毎月19日ですね。例えば、そういったものと親子連れの何か企画みたいなものを組み合わせて、例えば親子1日パスとか、沿線には温泉もありますので親子2日パスとか、そういったものの企画をしたりですとか、あとは、こちらの提案の中にもモデルコースの紹介というふうに出ていましたけれども、実際にこういうふうに使ったらいいよというふうなある程度の情報が与えられないと、電車に乗っても、さて何したらいいんだろうというふうに迷ってしまいがちなので、ある程度のお勧めルートの提案というか遊び方みたいなものを積極的に出していく必要があるんじゃないかなというふうには感じました。

それから、子育てとは少し離れるんですけども、駅の利用という点で、高校生がテスト期間なんかでは学校から追い出されて早く帰らなきゃいけないくて、かといって塾にも行ってなくて家に帰っても勉強できないという、高校生たちにそういった駅の場所を学習ルームみたいな形で整備すると、例えばこの駅に行って勉強しようかなとか、そういったふうにご利用を促進していくすべももしかしたらあるんじゃないかなというふうに感じました。高校生から勉強する場所がないというような声をよく聞きますので、そういった面からも駅の利用促進というものを進めていただけたらうれしいなというふうに感じました。

【知事】 続きまして、石川県PTA連合会の久木さん、お願いします。

【久木委員】 今のお話を伺っていて、私、子供たちの目線から思ったんですけども、もっともっと電車に触れる機会を増やしてあげる。例えば車両基地、もっと子供達がわっと来れるような企画を考えてみたりだとか、さっき言っていたマスコットキャラクターだとか、もっと子供達に親しみやすいものを提案していただけると面白いかなと思いました。

また、うちの子供もそうなんですけど、電車は、自転車では行けない遠いところかに行けるんですけど、今の利用者がどんどん減っていくと、もしかしたらダイヤの間引きがあるんじゃないかなとか。子供たち、やっぱり時間どおりに遊びに行きたがったり待ち合わせをしたりする中で、ダイヤが減ってしまったら、改悪というか、減ってしまうことで利便性が大人も子供もちょっと下がってしまうのは寂しいなと感じました。

以上です。ありがとうございます。

【知事】 続きまして、石川県高等学校PTA連合会英さん、お願いします。

【英委員】 私、子供が3人おまして、長男が今IRいしかわ鉄道を使って通学させていただいています。送り迎えは駅まではしているんですが、駅がやっぱりただの乗り場という感じで駅が閑散としている感じがしまして、駅の周辺がもっとにぎわえば利用する方も増えるんじゃないかなというふうに日々感じております。

一番下の息子も鉄道が大好きで、何も目的もなく石川線に乗って、いろいろと電車に乗って雰囲気味わったりとかということをしております。それなので、そういう鉄道が元々好きな子も今まで利用してなかった子も、何かもっと鉄道に乗ってワクワクするような企画とか、先ほどありましたようにスタンプラリーですとか、ここに降りたらこんなものがあるよというので地域の活性化にもなるのではないかなと感じております。

【知事】 ありがとうございます。

続きまして、ウェブで参加していただいています宮元加賀市長、お願いします。

【宮元委員】 先ほど冒頭でご説明がありました、これまでの I R いしかわ鉄道は、いわゆる人口集積地における運営状況ですよね。金沢津幡間という最も人口が集積しているところですよね。だから、ある意味それなりの乗降客の確保ができていたということだと思います。

ただ、これからの I R は、距離も長くなるし、人口が減少している地域も含まれていますから、そういう意味では経営は相当厳しくなってくるんだらうなというのは、普通の人は見た段階でそう思いますよね。

私、前にも知事がおられたときにお話を申し上げたと思いますが、これはまさに人口減少対策そのものなので、そうなってくると、私の申し上げたことがこれからの時代に合うかどうかというのは別の話ですけれども、かつては東京近郊なんかの私鉄沿線では宅地開発をやって人口を増やしたわけですよ。そういう要はマクロの仕掛けというのは当然必要になってくる。

これは乗り方がどうだとか面白い列車を走らせたかどうかとか、そんなような話とはまた別の話で、マクロのいわゆる全体的な絵をどう描くかという話になっていくわけで。そうなると、これまでの I R の経営の状況は集積地だからそれでよかったのかもしれませんが、人口密集地だからいいのかもしれませんが、これからはそんなわけにいかないということは、相当大胆に人口減少対策と不離一体の関係で対策を講じていかないと、私はなかなか厳しいんじゃないかなと。

これはコンパクトシティの考え方と逆行するかもしれませんが、やっぱり駅を中心としたまちづくりということを掲げている以上は、そうすると駅を中心として人口が集積するような仕組みをつくっていかなくちゃいけないというふうに私は思います。

であれば、コンパクトシティじゃなくて、ある程度若い人たちが集積してくれるような宅地開発をやるとか、いわゆるそういう建物なりそういうもの。民間資本ですよ。県に全部やってくれという話じゃないんですが、民間資本も導入しながら、そういう仕掛けを、大きな絵をどうやって描いていくかということに私はなっていくんだらうなというふうに思います。

ですから、運賃の問題とか補助金とかがどうだとかって、そういう議論はもちろんあるんだらうと思いますけれども、やっぱり人口減少対策そのものなので、これは。そこをどう絵を描いていくかということが一番大きな問題になってくるような気がします。

もう一つは、さっきからお話があることの一つですけれども、乗ることだけを目的化するとか。例えば知事のほうにも陳情、これまでもいっぱいあったと思いますけれども、観光地をいっぱい抱えている I R、こちらのほうは観光地を抱えているので、例えば日本にない観光列車を走らせたり、そういうことをかつていろいろと陳情したことがあったけれども、ほとんど却下されていきましたけれども。そういうことも含めて乗ることだけを目的化して、ここにぜひ全国から乗ってみたいと思うような仕掛けを一方でつくっていくかという、そういうことは考えられるんじゃないかなと思います。

それから、あえて一つ申し上げるとすれば、J R もそうですけれども、M a a S という考え方というのはまだまだ浸透してないですよ。だから、駅を中心とした M a a S を構築していく上においても、J R と I R が一体になって地元の公共交通機関とどうやって結びつけていくかということは、これから不可欠だと思います。そういうことも県の企画振興部が中心になって、そういう絵を J R を巻き込んで、I R を巻き込んでやっていくということは非常に大事なことなんじゃないかなと思います。

大体そんなところでしょうか。

【知事】 率直なご意見をいつもありがとうございます。
続きまして、連合石川の村上さん、お願いいたします。

【村上委員】 今ほどの宮元市長のお話と少し重なるところがあるんですが、よろしく願
いしたいと思います。

並行在来線の活性化ということでありますけれども、I Rいしかわ鉄道が全面的に運営を
つかさどるということは、県としても採算能力も含めて大変重要なことだと思っております。

一つに、運営するからには、しっかりと県民や利用者の負託に応えることが必要だと私は
思っております。また、通勤通学利用者、そして地域住民の足となるためには、利用しやす
い運賃、こちらの方も重要視することが重要かと思っております。そのためには沿線自治体
の支援が必要になろうかと私は思っております。加えて、ある程度の運営の運行する本数を
確保いたしまして、利便性を上げる必要があるのではないかと思っております。

この2点について、しっかりと沿線の自治体と連携をすることが必要だと思っております。

さらに具体的には、駅周辺の整備についてですが、地域の活性化に力を注ぐことや、観光
客などの利用促進に目を向けることも必要になろうかと思えます。この資料にもありました
ように、私的には駅名のネーミング、こういったところも観光客の集客の一つになるのでは
ないかなということの一つ思いました。そして今ほどのお話にもありましたように、私は沿
線の宅地造成をいたしまして沿線に住んでいただける人たちを増やすということで、人口造
成、そしてまた利用者が増えるというようなことで、有効かつ利用になるのではないかなと
思っております。

県といたしましても様々な施策が考えられておりますけれども、その実効性にしっかりと
取り組んでいただくことを切に希望したいと思います。

私からは以上でございます。よろしくお願いいたします。

【知事】 ありがとうございます。

続きまして、観光連盟の山下さん、お願いします。

【山下委員】 私のほうからは少し観光面でお話をさせていただきたいと思えますが。先ほ
ど来ご説明のあった中でも、令和5年度の主な取組として二次交通としての利用促進という
ことが掲げられており、その中でも企画切符でありますとか北陸3県との連携というものが
ございますが、やはりI Rいしかわ鉄道として通勤通学などの住民の足としての利用、これ
は大変重要かと思えますが、一方で観光面での利用、特にI Rいしかわ鉄道をローカル線と
言っているのかどうか分かりませんが、そういった旅を楽しむ方も非常に多くいらっ
しゃいます。そういった面では、やはり新幹線でお越しになり、これまでですと金沢ですけ
れども、今後、小松駅、加賀温泉駅に降りられる方々を県内各地隅々に回っていただく、周
遊していただくための仕掛け、これは大変重要かと思っております。

先ほど来、M a a Sというお話もございましたけれども、例えばJ R西さんではt a b i
w aという形で観光ナビをやられております。この中でも、金沢、加賀、あるいは北陸3県
という周遊切符をデジタルチケットとして販売されておりますけれども、多分これは新幹線
開業と同時になくなっていくのか変わっていくのか。現行のt a b i w aの中に載って
おります周遊パスというのは、金沢、加賀は新幹線県内全線開業までということで販売を
されておりますので、こういったものをI Rいしかわ鉄道としてどうしていくのか。そう
いったところも早急にご検討いただきたいと思いますと思っておりますし、私ども観光連盟
といたしましては、

県からもご支援をいただいて、今後、文化観光というものに大変力を入れていきたいというふうに思っております。そういった意味では、県内各地の文化観光、沿線各県の文化観光というものを推進していく上でも、新幹線の駅だけではなく様々な駅から県内各地を回っていただく、文化観光を楽しんでいただく、そういった仕掛けというものをぜひ検討していただければというふうに思っておりますので、よろしく願いをいたします。

【知事】 ありがとうございます。

続きまして、商工会の北野さん、お願いします。

【北野委員】 今日、商工会というよりも利用者の一人として、一言だけお願いしたいなと思うんですが。私は大体月に1回から2回東京のほうに行っております。住まいは能美市なんですね。能美市から新幹線を利用して東京に行くときは、能美根上駅までまず車でいきます。能美根上駅から金沢まで在来線を使って出ます。そして新幹線に乗り換えていく。

でも、新幹線が沿線になります。そうすると、小松駅に止まるようになると、きっと私は能美根上駅から在来線が出ないで、ちょっと戻りますが小松のほうに行って、小松から新幹線に乗ってそのまま東京まで行くんじゃないかなというふうに思っております。自分では。そうすると、能美市近郊の人というのは多分私と同じような行動を起こすのではないかなというふうに思います。

ということは、利用客を増やしたいというのが第一の希望かもしれませんが、非常に難しい状態ではないかなというふうに思っております。

先ほど来、マクロなお話がたくさん出ておりますけど、私、ミクロな話をしてよろしいですか。

私がこの資料を見せていただいて思ったのは、マイレール意識の醸成、ここのところなんですね。まずは、その路線がなくなったら困る学生さん。それから学生さんをお持ちのお母さん、お父さん、おばあちゃん。そしてその路線を使って通勤していらっしゃるお仕事をなさっている皆様。この方たちを中心に、IRいしかわ鉄道応援隊というのをまず各沿線の地区でつくっていただきたいなというふうに思っております。その方たちが、なぜこの路線がなくなったら困るかということが一番よくわかっていらっしゃる方なので、その方たちを中心としてIRいしかわ鉄道応援隊、あるいは支える会、何でもいいです。つくっていただいて、自分たちがなぜこれが必要なのかということをまず認識いただいて。

例えば、私は今、接客業をしているんですけども、60代から70代のお客様、年配の方がいらっしゃるのと、新幹線が開通してから新幹線はテレビでよく見ていると。だから自分が乗ったような、見たような気になっているけど、実際は見たことがない、乗ったことがないという年配の方が非常に多いです。それから、金沢駅の鼓門、あれも実際は見たことがない、話には聞いているけれども見たことがないという方も多いです。まして、金沢駅の中にある伝統工芸の人間国宝の方々が描いてくださった絵とか九谷焼とか、そういうものの柱も見たことがないというような方がいらっしゃいます。

例えば、中心になった応援隊の皆様が企画して、駅に集まって、そこから駅でIRを使って金沢の駅に出て、新幹線に乗ったことのない方を、例えば富山でいいじゃないですか、近いところで。富山まで往復して、向こうで御飯を食べて戻ってきてもらって、また電車に乗って帰っていただく。そういう小さいイベントでスポット的なもので、利用客がいきなり増えるということにはつながらないかもしれませんが、そういうことの積み重ねで少しでも利用客の皆さんが減らないような、そういう感じにしていっていただければありがたい

なというふうに思っております。

【知事】 続きまして、商工会議所の普赤さん、お願いします。

【普赤委員】 利用促進ということでの意見ということだと思いますので、経済団体の立場からお話をしたいと思います。

先ほども話がありましたように、デジタル化ということについては避けて通れないと思いますので、要は利用促進の観点についてもデジタルの活用。最近ではM a a Sという言葉が出ておりますけれども、ある意味、日本一使いやすいとか、世界一使いやすい仕組みをつくっていただきたいなという思いです。

具体的に申し上げますと、M a a Sのアプリを使えば全ての消費の活動に、当然、電車に乗るということもありますけど、全ての商品の活動をその一つのアプリで全部使えるというような仕組みをぜひつくっていただきたいなと思います。

みんなが参加するということが大事で、一部の人たちが参加しても利用する側というのは、こんな面倒くさいものを使うわけないということになるわけですから、そのためには、みんなが参加するというような仕組みを行政、それから経済団体も含めてみんなで作っていくということが大事ではないかと思います。

電車を降りた、その後に「まちなり」を利用するということでも、別の何かを使わないと利用できないみたいなことにならないように、一つのアプリで全てが使える。お金をどう分けるかみたいなことは、それは運営側の話なので、それはしっかりと議論してもらえばいいんですけど、利用者側に立った利用の仕方というものをつくっていくということが、人口減少していくわけですから、利用者は減るわけなので、できるだけみんながいろんな意味で使えるような仕組みをつくっていただければなというふうに思っています。

【知事】 ありがとうございます。

続きまして、北陸経済連合会の東田さん、お願いします。

【東田委員】 I Rいしかわ鉄道の活性化として2つあると思うんですけど、一つは通勤通学の足としての利便性の向上が一つ。それからもう一つは、新幹線が敦賀まで延伸になりますので、二次交通としての利便性の向上ということで、特に観光面でいいますと、二次交通としての利便性の向上によって、県内の各地域、細かな地域まで含めて広域観光につながるのではないかなというふうに思います。

その際、自治体だけ、あるいはI Rいしかわ鉄道だけでやってもなかなか広がりには欠いていくと思うので、それぞれの駅のある市とか町とか地域と一体となって取り組んでいくイベントを実施していくことが大切ではないかなというふうに思います。

それともう一つ、北陸経済連合会という立場から申しますと、富山県とか福井県にも在来線、あいの風、あるいはハピラインという線がありますけれども、そういったところと連携していただいて、3県だと新幹線に乗れば広域観光ができるわけですがけれども、もうちょっときめ細かないろんな観光という意味で、隣県との連携によりましてより広い広域観光を実現できるようにいろいろご検討をお願いしたいというふうに思います。

【知事】 ありがとうございます。

続きまして、金沢市の新保副市長、お願いします。

【新保委員】 私からは、3ページに今年度の取組ということで書いてあるところにありま

す。冒頭、知事もお触れでございました。1の利便性向上の下に、沿線のシェアサイクルとの連携とあります。「まちのり」とIRさんとの組合せによって通勤通学にご利用いただくという形。それから、これは例えば沿線市町が全てそういうシェアサイクルを組み合わせるといことで、観光客にとっても将来的にはいい政策ではないかなというふうにも考えております。

それからその隣、二次交通としての利用促進という中で、やはりMa a Sという中で、公共交通とデジタルを組み合わせしていく。こういうことによって、これまで線でしかなかったものが面に広がっていくということもございますので、こういうところも金沢市として今後どのようなことができるか考えてまいりたいと思っております。

【知事】 ありがとうございます。

続きまして、田村白山市長、お願いします。

【田村委員】 白山市では、IRいしかわ鉄道の金沢以西延伸に向けまして、沿線住民の利便性向上、そして並行在来線の利用促進を目的としまして、加賀笠間駅と松任駅の間にただいま西松任駅を建設しているところでございます。私、利用促進にはまずは利用環境の整備が重要であると思っております、特にバリアフリー化とパークアンドライド駐車場の整備が必要と考え、ただいま西松任駅には開業に合わせて駐車場を整備中でございます。来年度以降、加賀笠間駅におきまして、バリアフリー化を目的としました自由通路とパークアンドライド駐車場を整備する予定であります。その後、美川駅のほうもバリアフリー化できればなということも思っております。

また、ソフト面におきましては、ただいま建設中でございます北陸新幹線に関わりますビジターセンターがございます。そこの入場券とIRいしかわとの乗車券をセットとした企画切符の造成をはじめとしまして、また、松任駅がございしますが、そちらの窓口でのJR切符の販売促進策としまして、JR切符購入者に対して立体駐車場の無料券の交付なども考えていかなければならないと考えているところでございます。

さらに、IRへのアクセスとなります公共交通の充実も必要であると考えております。特に、新たに開設されます西松任駅の場合ですが、路線バスの立ち寄り、また鶴来、白山麓方面にありましては、西金沢駅への路線バス、大量輸送機関への接続の確保が喫緊の課題であると認識しているところでございます。

いずれにしても白山市だけでは難しい案件でございますので、石川県さん、そして沿線市町の皆さん、JRさん、そして北陸鉄道さん、そしてIRさんと一緒になって実現できればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【知事】 ありがとうございます。

続きまして、宮橋小松市長、お願いします。

【宮橋委員】 私からも、先ほど宮元市長が言われたとおり、やはり沿線に定住をいかに増やしていくかということ、あるいは職場をいかに誘致してくるかということが根本的に一番大事なところだということに思っております。

小松駅については、サテライトオフィスの誘致等に取り組んでいきたいというふうに思っておりますけれども、新幹線の停車駅ではない、ある意味では間の駅というのが非常に大事なんだと思っておりますので、そこにいかに定住を進めていくかということ、その地域の区画整理事業を支援していただいたりということも大事だと思っておりますし、また小松市

においては、これは本当にまだまだ妄想に近い話かもしれませんが、新しく今江駅ということを検討していてもいいのかなと。

【知事】 何駅？

【宮橋委員】 今江駅。今江という地域がありまして、木場潟のほうに。ある程度人口が密集している地域なので、そういったところに新駅をつくることで利用促進にしっかりとつなげていくということが大事だと思っておりますので。ある意味では石川県内の移動については、先ほどの話じゃないですけども、新幹線に乗るために小松駅だったり加賀温泉駅だったり金沢駅に直接車で乗り入れるのではなくて、鉄道を利用してそれぞれの駅を、I Rを使って新幹線に行くという、そういった移動をしっかりと心がけていく。ダイヤ編成を含めて、新幹線ではない駅の利用促進をしっかりとしていかなければならないなと思っております。

小松市においては、今江駅という、まだまだ妄想的な話でもありますがけれども、粟津駅あるいは明峰駅ということをしかりと、まずはきちりとこの地域について定住、また職場づくりというのを取り組んでいきたいと思っております。

あと、ソフトの対策ではありますけれども、小松市も、まちのりではないですけども、同じ仕組みを使ったドコモのバイクシェアを始めておりますので、シェアサイクルについて、こちらも各沿線に広がっていくよう一緒に取り組んでいければなと思っております。

そして最後になるんですけども、これからJRからの様々な財産の引継ぎが出てくるかと思えます。これをいかに円滑にしていくかということと、その財産をしかりと地域の発展に資するような扱い方ということができるように、共に取り組んでいきたいと思っております。もちろん駅舎もありますけれども、JRさんが管理している土地もあると思っておりますので、そういったところの有効活用も含めて取り組んでいきたいと思っておりますので、またご協力をお願いできればというふうに思っております。

【知事】 ありがとうございます。

続きまして、井出能美市長、お願いします。

【井出委員】 能美市では、能美根上駅の利用促進に向けてアンケート調査を行ったり、七野社長にパネラーになっていただいてシンポジウムの開催等もしております。自分の住んでいる場所、あるいは働いている場所からI Rいしかわ鉄道にどう乗ってもらうかということは、やはり住んでいる場所、働いている場所の近くからバスに乗ったり北陸鉄道の電車に乗ったりしていくということを重要視する必要があると思っております、いかに乗り継ぎを、利便性をよくするかということなんだろうなと思えます。

それに対して2つ提案がありまして、一つは乗り継ぎ割引ができないのか。運賃が難しければ、ポイントをつけて何か商品をもたらえるというような制度をつくれないうのかなというのが1つ目です。2つ目はダイヤです。例えば毎時間、同じ時間にI Rいしかわ鉄道の電車が発するようになれば、それに乗り継ぐバスや北陸鉄道の電車も毎時同じ電車になれば、分かりやすいですし、ダイヤも組みやすいんじゃないかなと思っておりますので、この2つを提案させていただければなと思えます。

【知事】 ありがとうございます。

続きまして、野々市市の山口副市長、お願いします。

【山口委員】 I Rいしかわ鉄道の活性化ということで、行政としてはハード面でも、それからソフト面でも支援していかなければならないと思っております。

野々市駅の南側につきましては、組合施行でございますけれども土地区画整理事業を実施し、もう完了いたしまして、多くの方に移住をしていただいております。それにより駅を利用している方も増えております。

また、同じく駅の北側についても新たな、これも組合施行でございますけれども土地区画整理事業を実施することが決定いたしております。これによりまして、また多くの人が増えるかと思えます。

そして利便性の向上というふうなところにつきましては、野々市駅は北陸鉄道さんのバスが乗り入れをしておりますし、それから市のコミュニティバスも乗り入れをしている交通結節点であります。これまでもJRの発着の時間帯と合わせたコミュニケーションバスのダイヤ編成、そういうこともやっておりましたが、IRにつきましてもさらにそういうことに努めまして、さらなる利便性の向上に努めてまいりたい。

また、駅を中心としたイベントの実施、こういったことも地域団体がこれまで2回ほど実施していただいて、大変盛り上がっておりますので、こういったことについても引き続き支援をしてみたい、そのように思っております。

【知事】 ありがとうございます。

続きまして、津幡町の坂本副町長、お願いします。

【坂本委員】 私どもは、今まで皆さんいろんな意見をおっしゃってききましたけれども、実は既に先行してIRで津幡駅、倶利伽羅駅に実際運行しております。もう既にいろいろなことをやったことについて少しお話しさせていただきたいと思えます。

人口問題については、津幡町としては定住人口と交流人口に分けて考えております。

まずは定住人口。間違いなく減っていくんですが、自治体での取り合いみたいな格好になって、いかに魅力をやるかということに一つ津幡町としてはJR、それからIR、鉄軌道を含めた、道路交通網も含めた交通の利便性を利点としておりまして、そういうのを根本に打ち出して、それらの利用ということでやっております。

具体的に申しますと、この資料にもありますが、津幡駅の駅前の駐車場整備をいたしまして、特に高校生が多い駐輪場の整備をして、きれいに盗難とかそういうものが一切ないよというのと合わせて、IRを利用して、先ほども新幹線の話が出ていましたけれども、東京へ行くときに安心して、金沢駅では非常に混雑して遠くて交通事情もあって、津幡駅に車を止めて、そしてIRを利用して東京まで行くときに、一昼夜1,000円という駐車料金を設けて、2泊しても2,000円で行けるというようなことをもう既にしております。

それから、津幡町は石川県の中でも珍しく町内でIRとJRが2つのそれぞれ駅があります。当然のことながら、金沢へ高校とかで通う住民が非常に多くて、通うのにも同じ住民でありながら料金が非常に違うというので、IRさん、JRさんも実は一部乗り継ぎ割引があったんですが、津幡町としても単独で乗り継ぎの助成をしております。これは現在も続けており、廃止になった部分についても一部割増しして現在も続けております。

最終的には、二次交通というのはすごい大事で、津幡町には町営バスというのがあるんですが、基本的には津幡駅のダイヤに合わせてやっております。それも加えて今のコロナで一部減少したのものも含めて、より利便性を高くするために、AIオンデマンドバスというもので、もう既にニーズに応じて、発想を変えて、自分の都合のいい時間を事前に言うというやり方ですね。定期の路線のバス時刻表ではなくて、都合のいい時間をそれぞれ事前に予約して行くというやり方も既にスタートする予定でございます。

最後に、これは大きな話ですが、日本でも世界的にも 2050 年カーボンニュートラルという事業、これは大きな意味であります、その具体的な一番早いのが公共交通機関だと思っています。そうなってくるとマイカーを減らすということがすごい大事で、その中でも特に鉄軌道になるとカーボンニュートラルの効果が一番高いんじゃないかと思っていて、自治体としてもそれをもっと前面に押し出して、津幡町としてはもう一部スタートをしております。

【知事】 続きまして、大変責任の重い I R いしかわ鉄道の七野社長、お願いします。

【七野委員】 当社線の利用促進等にこうしてこぞって知恵とご支援を出し合っただけ、そんな協議会を本日結成していただきましたことにまずもって厚くお礼を申し上げたいというふうに思います。

I R いしかわ鉄道は、県民の皆さん方によって支えられている鉄道、いわば県民の鉄道として、関係の皆さん方から今ほども出されました数々のアイデアを参考に取り入れまして、また、この後、J R さん、北陸鉄道さんという交通機関の方々のご発言もあるかと思いますが、両者とも連携を図りながら、今後とも多くの方々にご利用いただけるように努めてまいりたいというふうに思っております。

【知事】 ありがとうございます。

続きまして、J R 西日本の岡副支社長、お願いします。

【岡委員】 平素は鉄道の運行にご理解、ご協力いただきまして、ありがとうございます。

来年の新幹線の延伸、それから並行在来線の移管に向けて、残り時間も少なくなってまいりまして、鋭意準備を進めておるところなんです、こうした並行在来線の利用促進にも私どももしっかり取り組んで、連携して、地域の皆様のお役に立てるように引き続きやっていきたいと思っております。

私どもの役割というのは、変わらないところと変わるところがあるなと思ってお聞きしておりました。金沢津幡間におきましては、これまでどおりというか、これまで以上ということなんでしょうけど、七尾線と I R 様の運行というのは一体でございますので、さらに連携して日常、それから観光利用の促進にも努めていきたいと思えます。

金沢以西につきましては、日常の利用は I R 様に移管していくということになるかと思えます。私どもの役割としては、出張とか地元のビジネスの利用もあると思うんですが、どちらかという非日常のご利用に移っていくということなので、そこでまた私どもとしてできることはあると思えますし、鉄道運行そのものだけではなくて、先ほどからもお話をたくさんいただきました M a a S、私どもの t a b i w a、M a a S もリリースしてまだ半年ぐらいしかたっていないので、まだ十分ではないと思っています。これを充実させていくということで貢献できる場所があると思えますし、先ほど小松市長様からお話もありましたけど、まちづくりのために高架下、私ども新幹線の高架下を持つことになりますので、その利用という面でもご協力できる場所もあるかなと思っています。

いずれにしても、一部経営を移管するわけなんですけど、しっかり連携して取り組んでいきたいと思っております。

【知事】 ありがとうございます。

続きまして、北陸鉄道の宮岸社長、お願いします。

【宮岸委員】 最後にご指名いただくことになりましたけれども、本当に今日お集まりの皆様方、ご利用のお客様、石川線というようにお話もございましたけど、ご利用いただいている皆様方と、それから行政の皆様方をはじめ、おかげさまで元気が出てまいりました。同業者でございます。どうぞよろしく願いいたします。

まさに今、私、通勤のときにバスを使います。金沢駅の東口で降りて、西口で乗り換えるんですけど、コンコースをずっと移動しますけれども、毎朝本当に多くの方が、通学の方が一番多いんですが通勤の方も含めてたくさん降りていらっしゃる。なかなか西口まですんなり歩けない。そんなような状況で、よく目にする。まさに大量輸送の機能を本当に発揮されていらっしゃるなというのを日々日々感じておるわけでありまして。

あまりに多くのお客様が降りていらっしゃるの、西も東もバスがなかなか輸送力が小さいもので、しばらくお待たせするなど若干ご迷惑をおかけしているようでございますけれども、先ほど資料にもありました通勤の方が減ってなかなか戻らない。我々もまさにそれを実感して、通学の方は比較的戻りつつあるんですが、通勤の方が2割落ちて、なかなか戻らない。これはテレワークだとかいろんな要因は多分あるんでしょうけれども。先ほど津幡の坂本副町長もおっしゃいましたし、また、ほかの方も関連のことをおっしゃいましたけど、やっぱりマイカーが当たり前のまちでありますので、マイカーからいかに転換していくか。

例えば、IRしかわさんが石川県内全域をする。例えばそんなタイミングも捉えて、そういう意識改革の機運を高めるということは非常に大事だというふうに思っています。そうすると交通事故も減っていくと思います。マイカーが減れば。それから、まさに環境問題、これをやはり一つのキーワードにして、マイカーから鉄道への転換というものの一つの大きなタイミングになるんじゃないかなというふうに思っております。

私ども同業としては、いろんな参考になるご意見をたくさん皆様からも聞かせていただいたような感じをしております。また引き続きできることを頑張っていくいかんなど改めて思っている次第でありますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

【知事】 ありがとうございます。

私も日頃、利用する立場として、こういうふうにしてくれたらいいなという希望はたくさんあります。

実は北陸新幹線の延伸に伴って、サウンドロゴをユーミンさんをお願いをして、小松駅と加賀温泉駅に作っていただきました。ユーミンさん随分と気合が入って、小松駅のサウンドロゴを一曲に仕上げてマーチにして、これを航空自衛隊小松基地で演奏してくれないかという要望もいただいている、その根回しもしているんですが。やはり各駅における音という印象は、利用する方にとってのイメージに定着していくわけで、まさしく松任駅のサウンドロゴがあってもいいでしょうし、美川駅、明峰駅、それぞれ地域の印象を持った発車ベルの音とか、そういうのがあってもいいのかなと思ったり。あと、のと鉄道で「君は放課後インソムニア」、ラッピングの電車を走らせていただけるようですが、こうしたアニメと連動したデザイン性といったものは、列車の一つの魅力になってくるんだろうなというふうに思います。

また、津幡町の副町長がおっしゃっていただいたように、オンデマンド型で二次交通と連携したような利便性といったものがポイントになるとうれしいなと。

それから民間企業の方にも、ネーミングライツを含めて、たくさんの方の企業にお勤めの方に象徴的な形でやっていただくと、例えば西金沢駅はビーバー駅みたいに、北陸製菓がそばにありますから、もうちょっと柔軟に考えて、企業の皆さんと地域の駅というのは一体で成長しておりますので、その住民の皆さんにとっても重要なコンテンツが駅にあると、利用す

る方にとってみれば単なるポイントではなくて、そこが一つのふるさとなるような公共交通であってほしいなというふうに思っています。

あと関連して、アートですよ。駅もそうですし電車自体もそうですけれども、アート、芸術的なそれは品格なのか、あるいはコンテンツなのか、石川県に来たら公共交通でもアートに触れ合えることができるなという、そういう仕掛けもあっていいのかなというのと、それから無人駅が残念ながら増えてきていますので、折に触れて、できるできないはまた相談ですが、キッチンカーが駅前にあると、ちょっと楽しみで助かったりするんですね。あるいは地域の社会福祉協議会や公民館等の事務所に一室を貸して、常時人がいるようなサービスというのもあると、無人駅になって、障害者の方も高齢者の方も乳幼児をお連れの方もちょっと不安なところがございます。そして安全を確保するという観点と、顔の見える拠点という意味では、ぜひ駅の施設を事務所等にお貸ししてお使いいただけるようなことが私はあってもいいのかなというふうに思ったりしております。

最初に宮元陸市長もおっしゃったように、マクロもミクロも含めて、駅を中心に生活が成り立っていく。その拠点として、そこに行くことが楽しみであったり、そしてどう考えても必要不可欠な大量輸送の公共交通でありますから、そこに関わる方々の安全、安心を守れるようなサービスを提供できるように。

最後になりますが、私もICOCAもICaもPASMOも3枚、使い分けておりますが、一枚で全部乗れたら一番うれしいなと。これはいつも宮岸社長にもお願いしているんですが、一枚だともっと使いやすいなと。いつも北鉄に乗るときにはICaを出して、ICOCAも使い、PASMOも使ったりという使い分けが結構大変なんですよね。最近物忘れが激しくなったので、どれだったかなと。一枚で使えると外国人観光客の方にとっても非常に利便性が高まる。観光客にとっても。そうすると成田か大阪の関空でもいいから、空港で一枚のカードで日本全国公共交通に乗れるような、そういう1万円分か5,000円分でも買っていたければ、JRもIRも北鉄もそれで乗れるというのは、究極の理想ではありますけれども、様々な事情があるようですが、ここを乗り越えていくのが我々行政としての一つの責任のかなというふうに思っております。

以上、私からも好き勝手にお話をさせていただきましたが、一通り皆さんにご発言をいただきまして、お時間となりましたので、光永部長にマイクをお返しいたします。

5. 閉会

【光永企画振興部長】 ありがとうございます。お時間も超過しまして、大変失礼いたしました。

以上で終わりたいと思います。ありがとうございます。